

表紙の答え

災害時に応急給水所に設置される「組立式仮設給水タンク」

豊中市では、避難所となる市立小学校と義務教育学校に組立式仮設給水タンクを計画的に配備しています。地震で水道管が破損するなどして断水が発生した場合は、仮設給水タンクを組み立てて、給水タンク車から飲料水を移し替え、被災された方にお配りします。



上下水道モニターや地域の団体とタンク組立や応急給水の訓練を実施しています



タンクの容量は1,000ℓ。給水タンク車から移し替えた飲料水を給水します

上下水道局が取り組む災害対策の例

耐震管への取替と施設の耐震化工事(水道)

市では老朽化した水道管の更新の際に、耐震性に優れた水道管「耐震管」の導入を進めています。水道管をつなぐ継手部分が伸び縮みすることで、大きな揺れに対して壊れたり外れたりしないようになっています。

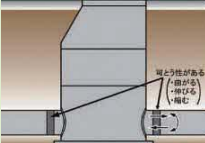
市内の水道管の耐震適合率は37.6%。基幹管路に限れば72.4%(いずれも令和6年3月末現在)です。なお、令和元年度で市内の配水池の耐震化工事を完了しています。



計画的な施設更新と耐震化工事(下水道)

下水道施設の老朽化に対応するため、市では「ストックマネジメント計画」を策定し、計画的に点検・調査や更新・更生を行うことで、施設の破損を予防し、地震への対策にもなっています。また主要な路線では、伸び縮みす

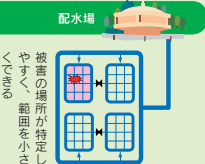
る継手を下水道管とマンホールのつなぎ目に採用するなど、耐震機能を確認するようにしています。なお、令和3年度で市内の下水処理場・ポンプ場の耐震化工事を完了しています。



水を止めないために

市では、市域を44ブロックに分けて、ブロックごとに水量や水圧を管理する「配水ブロック化」を進めています。これにより、漏水箇所や被害の大きさを素早く知ることができ、計画的

に復旧活動を行えるほか、被害が少ない近くのブロックから水を融通することで、断水区域を減らすことができます。令和6年3月末現在で、40ブロックが完成しています。



近隣市と相互連絡管を整備

災害時に近隣の池田市、箕面市、吹田市、尼崎市と水を融通し合うことができる「相互連絡管」を整備。いざという時に素早く安全に対応できるよう、実践的な訓練を定期的に行っています。



応急給水ポータルサイト

大規模地震などで断水が発生すると、被害状況に応じて応急給水所を開設します。応急給水ポータルサイトでは、開設場所や混み具合、水の残量などをほぼリアルタイムで確認できます。

応急給水ポータルサイト



地震災害による被害、どう対応する？

能登半島地震における豊中市上下水道局の活動報告



令和6年1月1日午後4時10分に発生した「能登半島地震」。最大震度7に見舞われた石川県では、最大約11万2,420戸で断水の被害が発生しました。

また下水道管の破損により、断水が解消してもトイレやお風呂で水を排水できない状態も続きました。

全国の自治体が応援に駆け付ける中、豊中市上下水道局では1月3日から被災地に職員を派遣(19班、76名)。日ごろの業務や訓練を生かして、4月29日までの約4か月間、支援活動を行いました。

豊中市上下水道局の活動

応急給水支援活動 (1月3日~16日)

給水タンク車:1台/支援車:1台/
職員:各班4名×3班=12名

活動場所

石川県七尾市(第1班)/石川県鳳珠郡穴水町(第2・3班)

活動内容

被災地での応急給水支援活動

応急復旧支援活動 (1月16日~4月29日)

作業車:1台/職員:各班4名×16班=64人

活動場所

石川県鳳珠郡能登町

活動内容

いかり五十里浄水場系(旧柳田村)エリアでの通水及び漏水調査



積雪で給水活動ができなくなる場合に備えて、給水袋を公共施設に配置しました



港に停泊した海上保安庁の船から給水タンク車に給水しています



漏水調査するため、慎重にバルブを開き、水道水を流します



地震で隆起したマンホール



新しい水道管が敷設されています



漏水が起きていないか、水が流れる音で聞き分けます



配水池内のバルブを操作可能にするため、固着した鎖を取り除きます

家庭でできる / 水に関する日ごろの備え

各地で地震が頻発し、8月には南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が発表されました。災害時は、停電や水道管の破損により断水することがあります。日ごろから飲料水の備蓄や風呂水のため置きなど心がけましょう。

「水」に関する備えについて、詳しくはこちら



水道水の備蓄を始めよう



1人1日3ℓ×3日分をめやすに、ローリングストックで水を確保

水道水を備蓄する習慣をつけておくと、「いざ」というときに安心です。

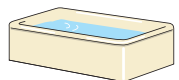
ペットボトルに水道水を入れ、料理などに使用します。1本がなくなれば水道水を補充して使用する、を繰り返します。例えば、2ℓの容器を3本でくみ置きすれば、常に4ℓ以上の備蓄が可能です。

ポリタンク、ペットボトルを準備



応急給水所等での給水には、ポリタンクがあると便利です。また、コンパクトに持ち運べる空のペットボトルを数本用意しておくのも有効です。

ふろの残り湯



ふろの残り湯は、火災時の消火用水として、またトイレを流すための水(下水道管の破損がある場合は不可)などに利用できます。残り湯をとっておくときは、安全面・衛生面から、ふろにふたをしておくことが大切です。

停電時の断水に備えて



集合住宅などでポンプを使って給水されている場合は、停電によって断水してしまいます。敷地内の非常用給水栓が使える場合がありますので、事前に管理会社などに確認しておくことも、備えになります。